

Title	市場経済と経営経済
Sub Title	
Author	向井, 鹿松
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1925
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.19, No.9 (1925. 9) ,p.1312(64)- 1358(110)
JaLC DOI	10.14991/001.19250901-0064
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19250901-0064">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19250901-0064</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 市場經濟と經營經濟

向井鹿松

一八八七年に發行せられた Ferd. Tönnies の Gemeinschaft, u. Gesellschaft は當時既に識者の認める所であつたが、彼の名と此の著は歐洲大戰と共に著るしく高く Sozial 又は Gem.einschaft を云ふ者皆彼に負はざるはなき有様である。一九二四年 Prof. Dunkmann が其著に於て Tönnies を Entdecker der Gemeinschaft, Bahnbrecher deutscher Soziologie と呼びたるは蓋し過賞ではないであらう。けれども茲に余の説かんとする市場經濟と經營經濟は、此の Gemeinschaft と Gesellschaft に相對應するものではない。蓋し後者は人類の結合接觸の凡ての形式を説明せんとするものであるけれども、前者は只其の經濟的結合のみを取扱ふ上に於て純經濟學上の問題である。又市場經濟は Gemeinchaft と Gesellschaft の上位概念である共に茲に所謂經營經濟は社會學

者の所謂 Gemeinschaft たり又 Gesellschaft の形式を採り得るからである。市場經濟と經營經濟の區別も其社會學的及び哲學的基礎は彼等の説に依頼しなければならぬこと明かであるけれども、茲に説かんとするは兩者の純經濟的特に技術的方面である。而して余が本論文に於て説かんとする所は經濟社會が經營經濟より市場經濟となり、而して市場經濟は更に經營經濟に移らんとするの傾向を有することを示し、而して此の推移の可能と其限界を示さんとするにある。而して本文説く所の内容は余の既に種々の機會に於て之を筆にし、又口にした所であるが、改めて之れを綜括し茲に發表せしむるに到つた直接の動機は最近着の Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik Bd. 53, 3 Heft に掲げられた Seraphim 氏の Zur Organisation der russischen Industrie の一文であつて、特に Kommunismus und Wirtschaftlichkeit schliessen einander aus の語によつて更に新たな刺戟を受けたるによるものである。

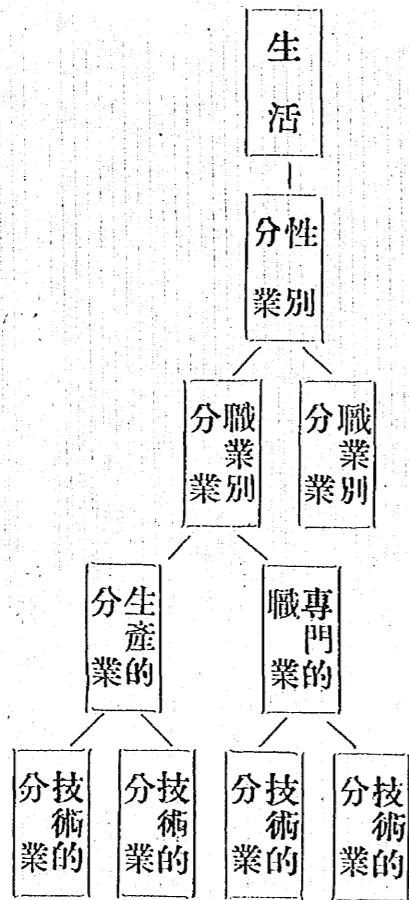
## 二

一つの經濟社會は一つの經濟組織をなすものであつて、其組織は其社會に住む人々が其程度の經濟生活を營むことを得る、換言すればかかる文化的生活をなす

一定數の人々を包擁し得る容器をなすものである。現代の社會に於て住む人々にかかる生活程度を支持せしむる此の經濟組織の根本的事實となつてゐるものは分業による專業に外ならないのである。蓋し一つの仕事を専門とする事は人間が一日に出し得る一定量のエネルギーを仕事に費やし一定の結果を得んとするに際し、其能率を増大し得る最も貴重なる手段であるからである。分業が斯の如く勞働の生産力を大ならしむるのは、之によつて仕事が簡單なる爲め之を爲すこと容易となり、而して此の交易なる仕事を繰り返へし行ふことは益々之を容易従つて又迅速ならしむるからである。洵に今日一定の限られたる自然力を有する土地の上に何千萬又は何億の文化的人類を收容し得る所以はかかる分業による經濟組織の存在する結果に外ならないのである。

人は生れながらにして孤獨のものではない。人生るれば其瞬間既に母の懷にある。人が社會的生活をなすことは理論を超越したる生きたる歴史的の事實である。而して彼等が社會的生活をなすや茲に既に分業は發生するのである。かの古の封鎖的家族經濟の下に於てすら男女の性別による分業の行はれてゐたこ

とは既に經濟史家によつて證明せられてゐる所である。けれども此の性別分業はこれ人間の自然的必要から發生したもので、かかる分業の下では男女各々同一の仕事に従事するものであるから、之による生産力の増加には自づから限りがあつて、無限なるを得ないものである。生産力増加の方法としての分業は性別分業が、更にそれぞれ男及び女の間に分業の行はれてからのごときである。此の分業は經濟の發達に伴ひ、換言すれば人口の増加、財貨の種類、數量、及び品質に對する慾望の増加に伴ひ一つの仕事が無數に分裂して行はれ行くものである。而して此の事實は左の一表を利用することによつて最も簡單に之を説明することが出来る。



則ち太古にあつては生活を爲すに必要なる仕事は皆一つの家族内に行はれて敢て他の經濟に依頼することがなかつた。而してかかる仕事は先づ第一に多數の經濟の間に分たれるやうになつたのは職業別による分業であつた。換言すれば従來一人のなした凡ての仕事は大工、鍛冶、左官等に分ちそれぞれ獨立の職業として之を行ふやうになつた。則ちかかる職業的分業が行はれて茲に社會は分化し始めたのであつた。かうなる生活する爲めには之等凡ての人の仕事を合あはせ集める必要が生ずるのである。而して之を合せ集める爲めにはそれぞれ特別の勞働其他の費用を必用とするけれども、而も分業による生産力の増加は優に此費用を償ふて餘りがあるのである。經濟が発達するに此職業的分業が更に分たれて來るものである。此の分れ方に二つの方法がある。一つは従來同一種の職業に屬するが故に同一の手に行はれたものが、専門的の仕事となる場合、例へば大工が家大工、船大工、指物師に分かれるが如き是である。次には一つの生産過程が多數の製作過程に分たれる場合で、例へば紡績、織布、染物の如き是である。此の状態が更に分たれて一人の人は只其内の一つの作業丈だけしかしない。かゝる

數十人、又は數百人の各異なれる作業を集めて初めて一つの體をなした仕事が出て來るもので、一つの經營内の技術的分業は其代表的のものである。

斯の如く今日文化的の生活をする爲めに吾人の要する凡ての財貨及び勤勞は各異なれる一部分のみの仕事をする數千の人々の勞働の結果である。今假りに吾人が衣食住の内の住宅丈に就いて見るも先づ普通請負師なる職業がある。之が大工、左官、屋根師、土方、塗物師、建具屋等の人々を集める。更に又此内の大工丈に就いて見ても、普通の大工の外に削り専門の大工、穴掘専門の大工がある。

更に財貨の方面で大工の加工する木材丈に就いて見ても森林の木材を伐り倒す者、之を運搬する汽車、汽船、之を板に挽き割る製材所、之を更に運搬する運送屋、此の外此等の人々の間には種々の商人があり、又汽車、汽船、製材所内にはそれぞれの専門的勞働者があり、更にかかる汽車、汽船、製材所は數千人の各専門的勞働の結果である。

住宅丈に就いて見て、又其内の一部分丈に就いて然かり、若し吾人が更に今日衣服及び食事に就いて云はんか、之が専門的に従事する凡ての職業の名稱、其内に行

はれる各生産過程、作業過程、及び其補助労働の名稱を擧ぐることは殆んど一朝一夕のよくする所でないであらう。かゝる數百種、又は數千種の各異なれる専門的労働を集めることによつて、茲に初めて一つの生産物は經濟的に作られ、又かかる生産物を集めることによつて吾人の文化的生活は可能となるものである。

斯の如く昔は凡ての人が其生活に要する凡ての仕事を一人でしたものが、今日は數百人、數千人の合力を必要とするのである。これによつて初めて今日の如き内容豊富なる經濟生活が比較的經濟的に出来るのであつて、分業なくしてかゝる生活は吾人の夢想だもすることの出来ない所である。洵に分業が人の生産力を増加することは驚くべきものである。此事はアダム・スミスが其有名なる富國論に於て如何にして國を富ます可きやを研究したる際に、彼が國富増進の第一原因として先づ目をつけたのが分業であつて、彼は之を國富論の卷頭第一に論じたのである。彼は其中にピン製造に於ける分業の例を擧げて分業が人の生産力を四千八百倍するを述べてゐる。又 Oppenheimer の如きは分業がよく人の力の能率を數萬倍又は數百萬倍することすら信んぜんとする者である。又今日經營能率

増進研究の最高度に達したりと稱せられる科學的經營法も、余自身の見解を以てすれば其心髓は畢竟是れ分業と之を集化する方法の研究に外ならないのである。

### 三

社會の分化、則ち労働が細分せらるればせられるほど、此の社會の生産力は増加するものであつて、此の分化の程度は則ち其社會の生産力の大小を規定するものである。けれども此の分化は一つの經濟的前提を有するものである。則ち分業は技術上可能なるが故に行はれるものでなくて、之を行ふことが經濟上有利なるが故に行はれるものなること余は既に他の機會に於て詳細に之を説明した。(本誌第十八卷第七號及び經濟學說研究中の拙稿換言すれば需要の存在之である。而して此の爲めには市場又は經濟社會の擴大を前提とするものである。茲に於てか吾人は經濟社會が發達し、其生産力の増大した場合に三つの顯著なる事實を發見するものである。

第一 分業は愈々細分せられ

第二 此の細分せられた仕事は愈々廣大なる地域に散在し

第三 其結果一つの物の完成に必要な各部分及び生活に要する凡てのものは之を廣き範圍に亘りて之を一ヶ所に集中し來たるを要することである。

吾人は先づ第一の點の發展より論じて行く。一つの仕事に分業が行はれ、之が愈々細分せられることは社會の上に如何なる結果を生じたか云ふことである。此點に於て吾人は社會學に於ける學者の所謂 *Gemeinschaft* の中に包括せられる人の數の減少、換言すれば *Gemeinschaft* の單位組織の縮少を發見するのである。其原因は兎も角此の共同團體を構成する團體員は、相互に了解し合つてゐるもので、此のことが各員を全體として結び付ける特別の社會的力及び同情となつてゐるものである。此の爲めに各人は大なる全體の内に融合し、異體同心の實をなしてゐるものである。則ち之を本論の場合に就いて見れば古の大家族制度である。其中に包む人の數は數十より數百を數へ而して彼等の中には性別の分業は勿論其他多少の分業の行はれてゐたことは事實である。而して此の共同團體はそれ自體が自給し自足してゐるものであるから、其仕事の結果は則ち其團體員の生活の

限度をなすものである。此故に *Tombs* も云へるやうに其團體内では統一的労働組織が行はれ、各自分擔して仕事に従事するものである。けれども其得たる成果は決して今日の意味に於けるが如き交換によつて相互の間に分配せられるものでなく、凡ての團體員は凡てを共同所有し、共同に享樂するものである。則ち其家の食卓は云はば其家其物であつて、各人は其一部に各自の座席を有し、凡て割り宛てを受けるものである。

然るに此種の大家族は經濟の發達と共に漸次崩壞して小家族となり、今日にては其内に僅かに二人乃至五六人を包擁するに過ぎなくなつた。而して此種の家族は其家族内に生産經營を所有する限り極めて一少部分の分業に従來するに過ぎないのである。従つて彼等は最早其の團體内の仕事丈では生活出來ない。其分業の結果を賣りて金に代へ、之を以て必要の物を買入れるを餘儀なくせられてゐるものである。

然らば第二及び第三は社會に如何なる結果を生じたるか、則ち以上述べたやうな小さな無數の經濟單位が而も廣き範圍に亘つて散在し、而して各自が勝手な

分業に従事する以上は一つの財貨を生産に要し、又生活に要する各種の財貨及び労働は之を各家より寄せ集めなければならぬ。則ち各自獨立して散在し、獨立して分業を營んでゐる人々の労働及び其成果を集めなければならぬのである。此の分業を集化する點に於てかかる社會も、又前述の意味に於ける共同團體も其間に異なる所はない。然れども此の集める方法は兩者の間に非常の相違を生じてゐるのである。所謂 *Gemeinschaft* の内には統一的な分業が行はれ、其結果は當然に集化せられ、其生産物は當然各員の間に分配せられるけれども、後に述べた社會の間には此の各員がそれぞれ分擔する分業は當然の結果として集化せられるものでなく、其生産物も亦當然に各員の間に分配せられるものではない。蓋しかかる社會 (*Gemeinschaft*) に對する *Gesellschaft* を社會と譯するは後に述ぶるが如く誤りであるけれども茲には普通の意味で社會と云つて置くを構成する各員はそれぞれ獨立の立場を有し、自己以外の他の凡ての人に對しては隔離の状態にあるものである。彼等各員の行動及び其權力の限界は相互間に嚴格に區分せられ、各自自己の領域に對しては他人の接觸及び介入を峻拒し、敢て之をなす者を以て自己に敵

意あるものと看做すものである。換言すれば彼等は天上天下唯我獨尊の立場を固守せんとするものである。かの *Tonies* が *Gesellschaft* の場合には之を構成する一體の人々が *Gemeinschaft* に於けるが如く平穩無事に相並びて生活居住するも、彼等は本質的に別離せるものであつて、本質的に結合せられてゐるものでない、則ち一は如何なる分離あるも尙結合状態にあるものであるけれども、他は如何なる結合あるも尙分離の實の存するものであると云つたのは此の關係を最も明かに示したものである。

社會に於ける各員の態度既に斯の如くなるが故に彼等は他人の爲めには一指の勞も、又一物をも與ふるを惜しむものである。萬一彼等が敢て之をなすならば、それは相手方が少なくとも彼等に對して同等の價值ありと考へられるものを提供した場合に限られるものである。則ち交換によらなければならぬのである。是ぞ交換の世に行れる社會的理由に外ならない。茲に於てかかる社會に於て分業を集化するの方法は交換によらなければならぬ、換言すれば交換はかかる社會に於ける分業集化の方法をなすもので、而もそれは經濟社會の範圍も大きな

り、分業が盛んに行はれるにつれて益々盛んに行はれるやうになつたのである。

## 四

茲に於てか吾人は經濟社會の發展は一方に於ては經濟社會の領域を大ならしむると共に、他方には交換關係に立つ經濟單位の規模を小ならしめ、此の結果交換は愈々盛んに行はれるに到つたことを發見するのである。則ち福田博士の如きは往年説をなして、「……經濟單位の發展は同時に經濟組織の發展を意味す。經濟單位縮少すればする程分業並びに交換と名くる連鎖によつて結合せる經濟組織は其範圍を擴大し其結合力を強くす」と論じ、以て經濟單位の規模と經濟社會の範圍が逆行的發展をなす所以を説いてをられる。けれども此のことは *Gemeinschaft* の一形式である家族共同體の發展に就いて見れば事實であるけれども、而も此は經濟組織を構成する唯一の形式ではないばかりでなく、近代の經濟組織の上から見れば家族經濟の如きは昔時の如く重大なる意義を有するものではない。換言すればそれは吾人の經濟生活の全部ではないのである。蓋し大家族制度が崩壊して小家族制度になつたけれども、これは一方には從來大家族制度の内に行はれ

てゐた重要な經濟上の職分が家族内から分離して獨立の經營に移つたからである。此の爲めに一家族の内には大なる勞働の必要がなくなり、此の勞働は多く別個の經濟たる經營の下に獨立の組織體をなし、茲に別個の經濟單位の發生を見るに至つた。米國の學者の所謂營業單位 (*Business Unit*) 之である。茲に於てか從來の家族經濟は消費經濟となり、生産の方面は經營なる獨立の經濟單位に移されたのである。然るに此の經營なるものは無數の消費經濟單位に屬する人々を統一的に組織するものであるから、この組織は消費經濟單位の縮少と逆行し、經濟社會の擴大と共に其規模を大にして來たのである。かの株式會社の如きは其例であつて、多數の人が一定の目的に結合し、株主の數の如きは數萬人に上るものがあり、更に其中には數千又は數萬の勞働者が權力關係の下に結合せられて一體をなしてゐるのである。此種の關係も亦一つ經濟單位として他の經濟單位と交換關係に立つものである。此故に經濟社會の擴大は消費的經濟單位の縮少を來たしたけれども、生産の目的の爲めに多數人の結合した此の生産的經濟單位たる經營は同じく其規模を増大して來、又今後益々増大せんとするものである。而して此



の經營の内に結合せられてゐる團體は今日の所にては之は所謂 *Gemeinschaft* ではなくして、*Gesellschaft* の一形式をなしてゐるものである。而も此の經營體の内には詳細なる分業が統一的指揮の下に行はれ、従つて交換によることなくして集化せられてゐるのである。現今此種の經營團體は漸やく其規模を大にして巨大なる株式會社となり、會社は更にカルテル、利益共同團體、トラストを形成して全經濟社會に於ける同一事業又は同一産業を統一的に經營せんとする傾向を示してゐるのである。而して此種の經營團體の規模の擴大はそれ丈經濟社會に於ける交換關係の縮少を意味するものであつて、而して社會主義の如きは此の經營の擴大を更に極度に延長して全社會を一つの經營となし、而して無交換の社會を形成せんとする者に外ならないのである。而して此の經營原則の下にある一團體を今日の如く *Gesellschaft* たらしめずして *Gemeinschaft* たらしめんとするのが則ち彼等の理想に外ならないのである。

茲に於てか二つの問題が吾人の前に展開せられるのである。第一かかる經營體の規模大となりて交換を廢除せんとする此の傾向は、其極遂に無交換の狀態に至るや否や、若し到らずとすれば其理由及び其限度如何。換言すれば經濟生活の社會化の條件及び限度如何と云ふ問題であつて、此の問題は一つは經濟問題であり、一つは技術問題となるのである。第二、一つの經營體が *Gesellschaft* より *Gemeinschaft* に到るや否やの問題は經濟及び技術改造よりも、寧ろ精神改造の問題となるものであるが此の問題に對する吾人の研究は之を他日に譲り茲には純經濟問題の討究に止めんとするものである。

## 五

以上吾人は分業組織による經濟社會の發展と其の傾向を示した。而して經營經濟が市場經濟に取つて代らんとする此の傾向は如何なる程度迄で行はれ得るものであるか。若し此に限界ありとすれば、之を超ゆる經濟社會は假令一時的にかかる經濟制度が創始せられても、經濟的破綻は必ず再び其の制度を舊に復さなければ已まないものである。此の議論に入るに先ち吾人は先づ市場經濟と經營經濟の區別に就いて一言しなければならぬ。

余が茲に市場經濟と經營經濟を區別せんとするのは分業集化の方法より區別

するのであつて、従つて純然たる機械的技術的見地の上に立つものである。蓋し人類の社會が經濟に其基礎を置く以上は何程公正なる思想の下に或る經濟制度が設けられても、其制度が經濟技術を無視することを全然許さないことは、かの勞農露西亞が彼等の所謂國家資本主義に復歸せざるを得なかつた事實が最も明かに之を示してゐるからである。かの社會改造は能率問題であると云ふのは此の意味に於て(而して只此の意味に於てのみ)正當なりと云はなければならぬのである。

社會の生産能力を増進する方法は分業によるの外はない。而して此の分業は必ず之を集化しなければ其目的を達することの出来ないものである。此の見地から吾人は前に述べたる經濟社會の發達の考察からして分業集化の二つの原則を發見する。

一、分業が統一的權力によつて人爲的に各人の間に分割せられ、従つて又其結果は當然統一的計畫に基き集化せられる場合。分業が統一的意思によつて集化せられて有機的一體をなす時は、余はかかる經濟の立て方を稱して經營經濟と云はんと欲する。

二、分業が何等統一的意思によつて集化せられるに非ず各人が個々の自由判斷に基きて之を行ひ、而して之が更に交換によつて行はれる場合。交換によつて各人の任意に無政府的に行ふ各分業を集化して行ふ經濟の立て方を余は市場經濟と名づけんとするものである。近世社會學者の所謂 *Gemeinschaft* と *Gesellschaft* はかかる機械的方法による單純なる經濟上の區別でないからして假令 *Gemeinschaft* の場合でも一種の交換は行はれ、其絶無を意味するものではない。(Tonies, a. a. O., S. 33 ff. Vierkaudt, *Gesellschaftslehre*, S. 230)

## 六

然らば統一的權力意思による分業及び其集化と、無政府的分業と交換による其集化とは何づれが其生産能力が大であるかと云ふ問題が起つて來るのである。而して吾人は此の分業の生産力増加を二つに分ちて考へなければならぬ。則ち技術的能率と經濟的能率の別之である。

第一、技術的能率。本來分業はそれ一つ丈では何等の經濟的效果を擧げること

の出來ないものである。其爲めには是等各部を有効に組織しなければならぬ。則ち各分業の間にはそれが作業間の分業であつても、又、生産過程間の分業であつても、その接觸する間に於て永續的の内部調整がなければならぬのである。分業組織の物理的合理化を必要とする。換言すれば各部の分業は相互の間に於て時間的に又空間的に磨擦を生ずることなきのみならず、更に進んでは最も經濟的方法によつて協力し得るやうな状態に於て集化又は組織せられるとを要するのである。最も理想的なる内部調整は之を自然有機體に就いて見るとが出来る。例へば吾人の胃袋が空腹を訴へたならば、足は食物のある方に向ひ、目は食物を捜がし、手は之を口に運ぶであらう。此の際若し足は他の方向に行かんと欲し、手は運動を欲し、目は休息を欲するならば、其有機體たる人間は其生活機能を失ふであらう。然るに有機體の各部分が皆それぞれ異なる機能を有し、而も之が協同一致するのは神經中樞に於ける統一的意思に依つて支配されてゐるからである。之と同一の理由で各部に分かれたる分業と集化し之を組織するとは猶自然的有機體の如き作用をなすやうにしなければならぬ。此の爲には先づ第一各部の

分業の時間的空間的配置が最も經濟的でなければならぬ。則ち二つの分業が同時に協同作業をする場合は勿論、兩者が前後關係をなして作業する場合に於ても、若し兩者の位置が當を得てゐない場合には一つの仕事から他の仕事に移る爲に多大の時間と費用を要するであらう。又かゝる連續的作業をなす兩者の生産能率が調和を缺く場合には能率の大なる者は其劣れる分業に制せられて其全力を發揮し得ざること、猶健脚家も腹痛に制せられて走る能はざると同一である。

斯の如く各部の分業をして適當なる時間的空間的配置を得て相互間に調節を保たしむる爲めには、一旦以上の如く定めたる凡ての人及び設備は皆其定めたる場所、時間、分量を正確に維持し、又之に使用する材料の分量、重量、密度、硬度、弾力、温度、化學的反應は凡て規定の正確を必要とするものである。若し之に差異を生せんか、忽ち其有機體の各部の圓滑なる相互作用は阻害せられざるを得ないのである。斯の如くして今日一般に利用せられる器械器具材料及其製品は凡て標準化せられてゐるのであつて、此の標準に合せざるものは今日何等の用をなさないものである。洵に現代の技術及び其製品の標準化せられてゐる事は現代經濟生活の顯

著なる特徴と目せられてゐるものである。斯の如く材料、器械、器具、動力、完成品が今日悉く標準化せられてゐることは、則ちこれ分業の發達を意味するものに外ならないのである。例へば從來一工場に於てA B C D E Fと云ふ同一種に屬する品物で、而も其の型狀、大小配列の度の多少異なるものを販賣してゐたものが若しA B Cの特徴をとりてBに、D E Fの特徴を綜合してEのみを製作せんか、此工場は只BとEの二種のみを製作し、それ丈け專業になつたものであつて、従つて凡ての設備は皆之れ丈の貨物を作るやうに標準化されてゐるのである。而して其結果は一つは製造が大量になるのと、一つは更に分業が行はれる爲めに、或は製作上に、或は商業上に、凡ての點に非常なる節約を生ずるものである。今日若し著名の會社製の時計又は自働車の一部を破損せんか、吾人は其一部丈を容易に而も廉價に手に入れ、之を取り換へることによつて全體の全きを得せしむることが出来る。若し之を新たに製作せしめんか、數倍の代價を支拂ふを要するであらう。然るに之を廉價に取り換へ得るのは蓋し皆之れ工場の生産物が標準化され、更に工場内に於ける勞働及び設備が之れに従つてそれぞれ分業となつて、此の標準化せられ

たる製品を作ることにのみを全能力を發揮してゐるからである。

此の分業の技術的能率の上より云へば經營經濟は正に此の爲めの理想的經濟形式と云はなければならぬ。蓋し經營經濟の理想的形式は今日の所謂營業單位である。其經營の内部に於ける凡ての勞働は之れ皆權力關係の支配する所であつて、而して其分業は統一的意思に基きて秩序的に配置せられてゐるものである。分業集化の能率増進の第一條件たる分業相互間の調整は完璧の程度に迄行はれ得るものである。かかる經營の内部には一物も利用せられざるものなく、一人の勞働者も無爲に遊んでゐるものはない筈のものである。各分業は時間的及び空間的に一つの無駄なく相互調整を保つて共同目的の爲めに活動してゐるものである。

而も此の經營内部に於ける分業の調整は最近經營生活が學術的に研究せられるに及んで非常の進歩をなし、亦實際に之が行はれるに至つた。今試みに其一二の例を示さんに、從來工場内部に於ける作業中心の場所的排置は只建設上の便宜が主となつて、作業及び材料移動の便と云ふことは主を置かれなかつた。此の爲

めに一つの作業中心から他の作業中心に仕事を移す爲めに無益なる運搬器具労働時間を費やしてゐたものである。然るに今日にては此の作業中心の配置を適當にし、以て出来る限り最短の距離と時間と、最小の移動費用を以て作業を完成し得ることを主眼としてゐる。現に獨逸のルール地方に於ける有名なる一大工場は一九二一及び二二年の間に於て此の目的の爲めに多大の犠牲を拂ひて工場設備の配置に一大改造を企て、其面目を一新したものである。(Magazine der Wirtschaft, 4, Juni, 1925.)

かかる合理的物理的設備の上に人と仕事を合理的に配置し、合理的の労働組織の下に最短時間に於て作業を完成せしむるものは統一的系統的の命令制度である。此の制度も最近殆んど完璧の域に到達した。則ち従來土木工業に於て青寫眞によつて作業の寸法を示す考が經營の上に延長應用せられ、之によつて労働者が工場に於てなす仕事の時間、方法、道具等が豫め指定せられるやうになり、此の結果として不用なる労働は全然省かれ、而も凡ての人が互に協調して一時も休止することなく労働するやうに出来てゐるのである。最近特に人及び物を充分に利

用する目的でかの鐵道經營に於ける列車運轉表の考が經營内部に輸入せられた。而して此の方法に於ては一つの仕事を一つの列車の運轉に比し、而して工場内に於ける作業が間斷なく、而も分業相互間に衝突することなく、凡ての人及物が同時に連續して作業出来るやうに考案せられるに到つた。作業圖表之である。

斯の如く凡ての分業が空間的、時間的に合理的に配置せられ、互に協調して衝突することなく、従つて最短時間と最短距離に於て仕事が完成せられるのはこれ一分業が權力關係の下に在りて之が統一的意味の下に統制せられるが故に外ならない。

## 七

分業集化の生産能率増進の第一條件たる物的及び人的生産要素並びに經營其物の合理的組織の點より見れば市場經濟による分業の集化は最も劣つてゐると云はなければならぬ。蓋し市場經濟社會に於ては何づれも自己一個の責任の下に、何人にも掣肘を受くることなく、任意の産業に従事するからして、一經濟社會を全體として考ふる時は其の生産組織は全然不合理的無政府的狀態にあるもので

ある。例へば其場所的排置の不合理なる一例を見んか、一生産經營の所在地が單に其所有者の故郷である云ふ理由丈に不合理なる土地に定められる。或は又之を勞働組織の不完全の立場より見んか、一つの町の各戸に只一人の牛乳又は新聞配達が只一回通過すればよいものが、今日では牛乳や新聞配達の營業者の數丈の人が同一の町を通過する不合理を敢てしてゐる。更に一つの經營と他の經營の作業及び其生産物が標準化せられない爲めに又種々の不經濟が生ずる。例へば或工場で十、十二及び十五馬力のモーターを製作してゐる際に之を註文する或工場の技師が其自己獨特の見地から十一馬力半のものを註文する。此場合に此モーター製造會社の地位が註文者に對して非常に弱い時には之に應じなければならぬ。而して此爲めに數千時間の勞働が國民經濟上無用に消費せられるのである。更に尙分業の上下關係に立つ一例を示さんに茲に一製鹽業者と之を原料とし利用する曹達工場とがある時に、前者は現在要求する代價で相當の利益を擧げ得る生産をしてゐる。もし此際生産額を二倍にすれば代價も非常に下げ得ると假定する。然るに曹達工場は現在の代價では辛うじて其經營を維持してゐる

るが、若し代價が安くなれば其販賣高が四倍に増加すると假定する。若し此際兩經營が同一人の手に歸するとすれば、換言すれば經營經濟の原則によるものとすれば兩者共に數倍を儲け且つ社會に數倍の貢獻をなし得るのである。更に曹達の代價の低廉は之を利用する他の工業をも利すること極めて大なるものである。此等は單に二三の例に過ぎないけれども、市場經濟による經營相互の間には種々の磨擦と不經濟を生ずるのである。かゝる弊害は此等の相互關係又同種經營の間に經營經濟の原則を應用するによつて除くことを得るものである。例へば彼の鐵鑛山の經營より之を運送する鐵道經營、之に加工する鑄鑛、製鐵經營迄も同一指揮の下に經營せんとする所謂垂直的合同、又は一國又は一地方の製鐵事業或は石油を同一經營下に指揮する所謂水平的合同の如きである。かゝる場合に於ては不經濟なる工場は閉鎖せられ、又經營相互間に完全なる連絡と調節を保つからしてかの分業による能率増進の第一條件は完全に充たされるのである。

一九二一年以來露國に行はれるに到つた所謂國家資本主義の下に於ける國家トラスト又は國家資本主義的トラスト Staats-od. Staatskapitalistisches Syndikat も亦産

業の垂直的・合同及び水平的・合同を國家が中央より統一的に管理經營する上に於て此の種の經營經濟の原則によるものである。又かの有名なラテナウの新經濟の思想及び千九百十九年フオン・メオレンドルフの計畫に基く獨逸經濟省の提案たる所謂計畫經濟の如きも亦經營經濟の原則を一國に於ける全産業に及ぼし一國の産業全體を凡て經營的・原則則ち統一的指揮の下に計畫的・機械的に組織せんとするものである。後者は獨逸商工業大會主査委員會の否決する所となつて獨逸には實施せられなかつたが此の思想は今日尙根強く残つてゐる所である。此の兩者は後者が之によつて勞働者と資本家の調和を主としたるに對して、前者が分業による一國生産力の増進を主としたる點に於て吾人の茲に特に興味を感じざる所である。之等の計畫は共に一つの職業例へば紡績業なれば全國の紡績業全部を打つて一九〇〇し之を一つの自治團體、譬へば株式會社の如きものにしてしまふのである。而して此の團體で原料の供給分配、勞働組織の改善による代價の低廉、不經濟なる經營の廢止、社會的に有利なる販賣機關によつて販路を支給する等其産業全體に對して殆んど凡ての權利を有してゐるのである。而して又上下關

係に立つ經營、例へば原料生産者と加工業者間の如き關係に立つ經營の間に更に縦の聯合會を造り之に依つて利害の衝突を避けて、其能率を擧ぐるに努め、更に最高機關として全國に亘る凡ての産業を包括する聯合會があり、之には凡ての者が屬し凡ての産業に對する最高權力者となるものである。けれどもこれによつて市場經濟が全然なくなるものではない。各自治團體間には賣買が行はれ、消費者亦代價を以て購入するものである。従つて交換關係は尙存するものである。且つ私有財産を廢止するものではないから全然マルクス式社會主義とは別である。而して後者は此の交換關係を全然廢除せんとするものであるからして、全經濟社會は一つの經營經濟の社會と化し而して分業は權力干涉によつて統一的指揮の下に行はれるものに外ならない。

八

けれども實際に於ては人がかかる理想的・排置をなし得る程度には自づから制限のあるものである。蓋し經營經濟の特質とする所はかかる組織的・排置をなす所の統一的・意思の所有者が經營を組織する各要素の能力、性質等を豫めよく熟知

することである。例へば如何なる場所に如何なる才能氣質を有する人が適任なりや、かゝる人は何處に求む可きやを豫め知らなければならぬ。然るに人の能力には自づから限りのあるものであるから、一つの小經營例へば十人五十人の人を適當に組織することは敢て困難ではあるまいけれど、五百人、千人の適材を求め、之を適所に置き而も彼等が相互間に圓滿なる行動をなすやうな配置をなすことは容易でない。更に加ふるに物的設備の配置のあるに於てをや。由來獨逸人は組織的才能のある國民とせられてゐる。それでも今から七十五六年前には資本金二百萬馬克の工業會社の統一的管理者として自任し得る人がなかつたと云はれてゐる。此の故に今日一つの經營で一萬乃至十萬人の勞働者を使用してゐると云ふ如き觀察は全く誤れる考へである。一つの企業でかゝるものはあり得可し。されど一經營内に千五百人以上三千人を越すことは容易でないのである。千人の人を統一的に指揮すること既に大なる技術を要するのである。況んや三千人の人をや。けれども一方には此の制限も決して固定的のものではない。通信技術の發達、又勞働組織の改善其物は一の統一的指揮の下に包括し得る人の數を増

大し得るものである。

現に今日にては鑛山又は石油採掘より、其の製造又は精製に關する凡ての事業を一つの企業の下に行ひ得るものがある。而も此等の企業の完成品を彼等自づから各消費者の門戸に迄運び之を販賣することは、此等の大企業と雖も尙難たしとすする所である。蓋し此爲めには驚く可き廣汎に亘る經營を必要とし、而も之を統一的に管理支配することは事實上不可能であるからである。かのライニッシュ、ユ、ウエストフェーリッセス、石炭シンデカートが販賣を此手に收むるを敢てせざりし理由は直接凡ての消費者に接觸するを技術上不可能なりとしたからである。一つの産業にして既に然かり、若し國家又は社會が凡ての産業を一手に集め之を統一的に管理するの困難は思ふて餘りがあるのである。少なくとも一人、一物を一分間をも無爲には遊ばさぬやうな例へば全社會七千萬人の人を悉く合理的に利用することは出來ないであらう。果して然らば統一的指揮による分業集積の技術的利益も自づから一定の限界の存在するものであつて、而して此限界は分業の空間的配置が大なれば大なるほど早く達するものである。



統一的意思による分業集化の技術的能率増進の第二の限界をなすものは、經營經濟が一種の計畫經濟であることである。則ち權力關係の下に在る凡ての人が上位にある統一的意思によつて支配せられてゐる結果は各人の自由意思に基づく行動は許されない。而して此點は經營經濟の特徴なると共に又大なる缺點をなすものである。此故に下級労働者は寸毫の自由作業及び判断が許されないと共に、一經營の指揮者と雖も亦獨立企業家の如く自由判断によつて事を決することが出来ないものである。例へば經營運用の途中に事情が變化して命令通りに行ふことが出来ない場合、又は新たな行動を採らなければならぬ場合には一上級權力者の指揮命令を仰がなければならぬ。其間に時期を經過し、機會を逸し、指揮者折角の才能をも之を利用することが出来ないものである。

計畫經濟の行はれる時は人の自由判断を拘束し人間の融通の才能を抑壓し、其結果機會を逸せしむるからしてこの經濟は需要の變遷の大なる事業特に商業や又進歩的社會には適應しないものである。よし又假令其地位が比較的上級にあつて多少の自由判断の許される場合でも尙彼等は之を敢てするを躊躇するもの

である。かの前述の獨逸の石炭シンデカートが本年四月以來 *Ruhrkohle A. G.* と稱せられ、其内地に於ける販賣獨占の原則を廢止したのも從來シンデカートの商業が官僚的にして敏活の行動を缺くことが大なる理由をなしてゐる。蓋し計畫經濟の下では最大多数時には殆んど全部の人々が受託者の地位に立つからである。例之株式會社の場合には重役は株主の財産の管理運用を信託せられたものであり、國家又は市町村團體の經營に従事する管理者は悉く皆之れ受託者の地位に立つものである。受託者の任務とする所は誠實に且つ確實に管理することであつて、新たな途を開拓し、危険なることをなすのは彼等の職に忠なる所以でない。此の點は受託者の地位にある經營者と獨立企業家の活動の本質的に異なる所である。後者は其行動の結果生ずると信ずる利益と費用を計算し以て自己の利益と責任に於て事業を敢行するけれども、受託者の地位にある經營者は之に反し、自己に採り最も抵抗の少なく、又愉快多くして危険少なき途を撰ぶ結果、自然因循姑息となり、事業の改良を熱心に試みんとする進取的氣象を失ふものである。かの官吏又は官僚型の人物は且つ此種の例に外ならないのである。而して一つ

の經營が大なるに従ひ、則ち經營的原則によつて一つの統一的意図の下に集化せられる分業の數大なるに従ひ、權力の移讓愈々大なるを以てかかる受託者の地位にある經營者の數は益々大となり、爲めに社會の人々の進取の氣象を萎微せしめ、經濟の發達を阻害するに到るものである。

## 九

第二、經濟的能率。統一的意図による分業の集化は生産能力増進の第一條件たる技術的能率を増加し得るも、而もこれは經濟社會全般を包括すること困難なるのみならず、尙其程度大なるに到らんか、人の融通、氣轉の才能と進取の氣象を阻害し、經濟の發達を阻害すること前述の如し。これ則ち古の小經營が漸次大經營となるも、而も尙社會は勿論、上下關係に立つ一産業全體をも包括することが出来ない所以である。而して此の二つの缺點は市場經濟の原則によつて分業が集化せられるによつて明かに除去することが出来るものである。蓋し市場經濟社會に於ては各人それぞれ自己の才能及び資力に應じ、自づから以て物的及び人的要素を合理的に組織し得る程度に單位を定める。又敏活を必要し、臨機應變の才能

を要する事業には數階段に亘る權力の移讓を必要とするやうな大經營を起さず、自己單獨の責任と決斷を以て自由に機會を捕へるやう小經營で行ふ。又自己の行爲より生ずる結果は自づから負擔するからして、大膽にして勇敢なる企業心に基きて行動することが出来る。而して之等の小經營が到る所に散在發生し、其間に互に交換を行ふものであるからして、其社會が如何に擴大しても之を集化するに大なる困難を感じないのである。

けれども市場經濟の原則による分業の集化は經營經濟の缺點を補ふ特徴を有すると云ふことよりも、それ自身が分業集化の上に於て缺く可からざる特質を有してゐるのである、換言すれば經營經濟の補充たるよりも、寧ろ分業集化の本質的要素をなしてゐるものである。則ち茲に吾人は分業集化による生産力増進の第二條件に到達するものである。

分業の生産能力の増進は單に前述の技術的能率のみを以て足れりとしない。尙經濟的能率を擧げなければならぬ。(技術的能率と經濟的能率の別は生産力と營利力(Produktivität vs. Rentabilität)の區別と同じやうであるけれども、營利力なる語

は特に私經濟的見地にのみ立つものなるが故に此際余は此の語を用ひない。前段に一言した様に現代の經濟社會には分業が只技術上の生産能力が増加し得るが故に直ちに起り得るものでない。其の増加したる生産能力に對して充分の需要の存在する時にのみ之が實際に行はれるものである。蓋し需要せられざるものを生産するのは不經濟の極であるからである。かのミスが分業は市場の範圍によつて制限せられると云つたのは此の意味に外ならないことは余が他の機會に於て再三述べた所であつて、之れ又余が經濟的能率を以て分業集化の生産力増加の第二條件となした故である。

分業が經濟的能率を擧げ得るには又二つの點を考慮するを要する。則ち(a)分業により増加したる生産物に對して之を消費するものありや否や。(b)又之を經濟的に換言すれば之により得る所が費す所よりも大なりや如何之である。而して此事は市場經濟社會たるを經營經濟社會たるを問はず分業の行はれたる社會には必ず其前提をなすものであつて、此を無視する社會は決して永續することの出来ないものである。而して此點は則ち市場經濟をして多くの弊害のあるに

も拘はらず尙其存在を理由づくる最根本の原因にして經營經濟の企圖する能はざる所である。然らば現代の市場經濟社會は如何にして社會的分業の經濟的能率を可能ならしむるや、又經營經濟社會は何故に此點に於て不可能なりや。

## 一〇

先づ資本主義經濟社會に於ける需要の測定の方法より見るに、今日何れの地方を問はず、消費者の存在する所必ず小經營の小賣店がある。此の小賣店は其勢力地域内に於ける消費者の消費量を過去に於ける現實の賣却高によつて測定するものであつて、而も此の測定の正否は則ち彼等の經濟的運命の決せられる所であるから決して杜撰なる憶測によるを許さないものである。而して彼等は之を地方市場に於ける問屋に注文を發するを以て、此の問屋は亦其勢力範圍内に於ける消費者の需要を自己の經濟的破綻の危険に於て正確に探知し得ることが出来る。而して彼等は之を又中央市場に於ける大卸問屋に注文を發するを以て、茲に中央市場に於ける小數の卸問屋は全國に亘る販賣網を通じて全消費者の需要を知ることが出来るのである。則ち此の測定は凡て彼等が自己の危険に於てなしたる

實測の結果である。而も此の實測は過去の事實を基礎とするものであるから必ずしも將來の需要を正確に表はすものではない。茲に於てか中央市場には彼等商人の外に、將來に於ける需給に變動を及ぼす可き凡百の事情を豫測する投機商人がある。而して彼等は又自己の經濟的破綻の危険に於て之等の事情が將來の需供、從つて代價に及ぼす影響を豫定するを專業とするものであるから其豫想は決して誤たないのである。此事は紐育取引所の相場が將來の景氣の變動を六ヶ月乃至二年以前に豫示せざる可き事實に見て之を證することが出来るのである。則ち中央市場に於ける現物商人及び投機商人は現在及び將來の需供を豫測し、正當なる代價を形成して誤たないのである。而して此の代價の高低は則ち一國に於ける生産消費を支配し、從つて又社會的分業を指揮するものである。而して此の豫測の正確なる限り之れに基きて行はれる分業が經濟的能率を擧げ得ること又多く説明するを要しないのである。而して此等の代價に影響を及ぼす特種の事情が其間に突發する如きことあらんか、市場經濟社會に於ける大多數の經營は經營經濟社會に比し其規模小にして、從つて權力の移讓の行はるる過程少

なく、且つ彼等は自己の責任を以て獨斷に其營業方針を左右し得るを以て機を失すること少なく、從つてそれ丈危険をも早く阻止し、以て社會の需給を迅速に調節し得るものである。

然るに經營經濟の原則に基く社會主義社會に於ては統計によつて將來の需要を豫測せんとするものであるけれども、之等の統計は例へば今日米收穫の豫測等に於て見る如く市町村の吏員が實測の結果に非ざる過去の統計を基礎とし、其年の豊凶を考慮して假想的に定むる如き類のものであつて、而も彼等が之をなすや全然お役目になすものであつて、其正確なりや否やは多く彼等の關する所ではない。之を前者の方法と比較して何れが眞に近きや、多く問ふの必要はないのである。

否米や鹽の如き日用品で需要に比較的變動の少ないものはかかる無責任杜撰なる統計は尙用ふ可し。けれども流行の變遷の烈しきもの、例へば帽子、浴衣地、石鹼其他裝飾品の如き如何にして需要を測定するか。統計によりては實際に近き數をすら尙算出し得ないであらう。換言すれば統計は將來の測定を許さないの

である。

## 一一

經濟能率を擧げる第二の條件は、よつて得たる收益が費やしたる費用より大なりや否やにある。思ふに最少の勞費を以て最大の効果を得んとする事が經濟の行爲の本質的第一要素たることは何人も否むことの出来ない所である。則ち經濟は勞費と効果の比較である。既に比較である以上は勞費と効果が同一の單位に表はされない限り比較は出来ないのである。例へば米一合を植えて假りに一斗を得た際に之に要した勞働を省けば直ちに比較出来るけれども、勞働を加へる時は比較は出来ない。則ち一定の勞働で、米を得るのと、勞働と肥料とを用ひ一定の果實を得た時と何れが利なりやは、何か一つの仲介物に凡てを換算しなければ正確なる比較は出来ないものである。此の事は社會經濟全般に就いて見ても、亦一つの私經濟に就いて見ても同一である。則ち其社會に存在する生産要素を以て鐵道を敷設するを利とすか、又は紡績工場を起すを經濟的とすか、實物によつては比較の出来ないものである。然るに市場經濟社會には交換が行はれる

結果として、客觀的の交換價值が発生し、之が貨幣に表はされるからして、かかる社會には凡てのものが貨幣に換算せられて、茲に費用と收益が比較せられ、之によつて一つの産業が經濟的なりや否や、又此の産業と他の産業は何づれが經濟的なりやが比較せられ、之によつて分業が支配せられて最も利益ある事業が分業として社會に行はれるに至るものである。

然るに今若し全經濟社會に交換がなくなり、全經濟生活が經營經濟の原則によつて支配せられたとする時は茲に費用と收益を計る仲介的尺度はなくなり、凡ての事業はこれが經濟的なりや否やを知ることも能はず、凡ては暗中摸索とならざるを得ないのである。蓋しこれほど危険なる經濟行爲はないであらう。Seraphinは勞農露國の前期の經濟組織を評して曰く、露國の經濟的破滅の他の一原因は一般に經濟(Wirtschaftlichkeit überhaupt)の經濟的計算(Wirtschaftliche Kalkulation)を破毀した點に存する。こは國有産業が共產主義的組織の下に在るより生ずる當然の歸結であつて、則ち制度全般より生ずる直接の結果である。工場は經濟單位の性質を喪失し……收支の對比をすることなかつた……各關係工場間に於ても受渡したる

原料及び製品に對して何等の精算をも行はなかつた。最高經濟會議は各工場に器械、原料、燃料、貨幣及び労働者給養品を支給し、而して製造品を受取るも、彼等は支給したるものと受入れたるものとの價値に就いては知る所がなかつた。……從來共產主義はあらゆる「經濟的なること」(Wirtschaftlichkeit)を否定するものであると謂はれたのは蓋し正當の言であつたのである。此の故にソヴェット露國の計畫的組織(Planorganisation)は資本主義の無政府的組織に劣ること萬々であつたのである」と。(Archiv, a. a. O., S. 774 f.)而して此等は則ち露國が一九二一年春に所謂國家資本主義に逆轉せざるを得なかつた重大なる一理由であつた。

經營經濟の原則の下に集化せられる分業の間に於ても、これが經濟的能率を擧げる爲めに市場經濟社會に於ける交換價値を利用することは現代一般に行はれる所である。例へば一つの經營内に製造部と販賣部とある時に、製造部より販賣部に引き渡す製品は之を其日の時價に計算し、以て兩者が其能率を競ふが如き之である。而して此の最も顯著な例はデパートメントストアの經營法である。デパートメントストアは人の知れるが如く凡ての商品を販賣するけれども、それは

萬屋ではなくして、各部(デパートメント)制度による商店であり、各部はそれぞれ經營の上では一つの商店である。故に例へば化粧品部は其建物内に占むる場所に對しては之を借りたるものとして場所代(レント)其他之に使用する直接及び間接經費を拂ふ可きものとする。而してこれを其の賣上高と比較し、若し非常の利益あらば、他の部を縮小しても之を擴張す可く、若し缺損の計算となる場合には之を縮小すべきものである。此故にデパートメントストアは多數の部を經濟するも而も之を合理的に經營し得るものである。

## 一一一

以是觀是吾人の今日の知識を以てすれば市場經濟社會は今日吾人の期待し得る唯一の社會組織と思はれるのである。而してこはこの經濟社會に於て交換價値が発生し、之が分業を指揮するが故に外ならない。(社會主義者が社會的に必要なる労働時間を算定し、労働價値を計算の標準とする説の如き未だ以て吾人を首肯せしむるものでない。)而して此の交換價値は各人が相互間に交換するより發生するものであつて、各人の意思の表はれと見ることが出来る。而して前述の如

くにして發生したる交換價值は正に社會多數の人の賣らんとし、買はんとする所の統一せる社會的意思と見做すことが出来るのであつて、分業は則ち此の意思によつて支配せられてゐるものに外ならない。此の故に市場經濟社會、又は資本主義經濟社會は無政府的生產組織と云ふのが常であるけれども、吾人の如く社會を一つの統一體又は所謂交換共同體 (Austauschgemeinschaft) として見る時は經營經濟に於けると同じく統一的社會意思によつて分業が集化せられてゐるものと見ることが出来るのである。

さはれ吾人は決して資本主義經濟社會を謳歌するものではない。只分業による經濟的能率を擧げんとするには市場經濟社會に於て交換價值發生の必要を信ずるものである。交換價值によつて分業を指揮し此を合理化せしむることなくんば經濟社會は其破綻を見ることを信せんとするものである。世人は、資本主義經濟社會の弊として投機を非難するも、吾人は交換なき經濟社會こそ眞に投機なりと斷定するものである。思ふに投機は前以て將來を迷想し、豫想し、之に基き或る行爲をなすことである。而して生産は常に將來の消費を豫測して行はれる結

果は社會的生產は如何なる社會に於ても投機的であると云はなければならぬ。資本主義經濟社會の投機は只需給の反影たる代價を豫測する迂回の間接測定法なるも社會主義社會の投機は直接に生産と消費を豫測するの差のあるに過ぎないものである。而も尺度も用ふる間接測定法が直接測定法に優ること前論の如くなる以上は、社會主義的投機の危険なること資本主義的投機の比でないばかりでなく、其危険を負擔する者は社會全般にかかつて來るのである。換言すれば只危険負擔者の轉稼あるに過ぎないのである。これ則ち余が社會主義社會に尙投機あるを主張する所以である。

然かり交換價值は只此の費用と結果を測定する尺度としてのみ意義を有するものである。かの Smart が「價值は効用の計算形式なり」と云ふ Wieser の言を引きて、「此の言たるや或る收穫の効用を測ることの如何に不可能にして、其高及び代價を計上することの如何に容易なるかを思ふ時に其意味の存する所を知る可し」と云つたことは吾人の亦全然同感を禁じ得ない所である。而も此の交換價值が、經濟的計算の尺度たる點に、主を置かず、價值其物の獲得を唯一の目的とする點に則ち

資本主義經濟社會の病竈は存するのである。彼等は一定の社會に一定の時に存在する一定量の價值を他人を倒してまでも自づから出来る限り大なる分配を獲得せんとするのである。而してこは決して市場經濟社會其物の罪ではないのである。かの少數資本家の獨占事業が自由に其代價を決定し、勞働者特に消費者を搾取する時に則ち此の資本主義の弊は明かに表はれるのである。此等の代價は一部少數の者の任意に決定する所であつて、斯の如くならば代價は最早眞正の意味に於て社會の意思と見ることは出来ない。かかる事業はこれを社會化する必要の存在するものである。而して此等の獨占的事业は其性質最早個人の獨創力、融通機轉の方に俟つことなく、寧ろ之を確實に管理するにあるを以て之を社會化するも何等の不都合を生じないのである。けれどもこれ等の個々事業の社會化は決して市場經濟社會を除去するものでない。彼等は市場經濟社會の内に於て、其内に發生する交換價值を標準として其經營經濟を合理化するものである。

## 一三

以上余は社會主義經濟社會を以て市場經濟の原則の作用を許さざる全經營經濟

濟の社會たることを前提として議論した。然るに近時一の經營の生産資本に對する個別財産を認めざるも、之を勞働者自づから管理支配し、以て統一的に經營を運用し、而して此等の經營が相互間に物財及び勞務を一定の支拂資料によつて交換を行はば茲に社會主義社會に尙經濟的計算の基礎を生ず可しと考へるものがある。今日所謂全社會化(Vollsozialisierung)を唱ふるものは蓋し此等の社會主義的經營を創設せんとするものである。けれども生産資本の個別財産を認めないで、生産資本の交換關係は決して發生しないであらう。例へば石炭協同團體が製鐵共同團體に石炭を引き渡す際に若し之が其所有でないならば代價のする發生わけはないのである。而して若し此の個別財産を許すことすればそれは最早社會主義ではなく、サンヂカリズムであらう。

以上論じ來たりて吾人は市場經濟社會の基礎の容易に動搖するものに非ざる所以を論じた。而して此際技術的能率の擧らざるものは之を經營原則によつて集化し、又之によつて大規模經營となすことが出来る。而して近時此等の個々の小規模なる技術的分業の經營を合して大經營となし、以て分業の技術的能率を擧



げんとする傾向が甚だ大であり、其中には社會化さるるものも漸やく大となるに到つた。けれども大多數の産業には大經營によつては能率(技術的及び經濟的に)を擧げ得ないものがある。之等は長く小經營として止まる。而しよし個々の産業が大經營となつても又之が社會化され従つて經濟社會に於ける交換の範圍縮少しても、凡ての産業が悉く經營經濟の原則による社會は成立し得ないものである。此等の個々の大經營は或る限度に止まりて、而して市場經濟の原則によつて合理化されるものである。

吾人は終りに臨み市場經濟を讚美し、其永續を信ずるも、資本主義を謳歌するものでないことを一言する。

筆者は常に各論文に於てゾムバルト教授も云へる如く他人の思想又は他人の文句を用ひたる時は其旨を記して、成る可く他人の勞を私しせんことを避けた。又一には之によつて他人の説と自己の考の分界を明かにせんことに努めた。唯本論文は旅行後數日間に起草の必要に迫られ其間家族に急病ありて入院するあり、かれこれ諸學者の説を一一檢索して之を附記するの暇なく、全然自己の記憶と採萃にて記述した。他人の説と文章にして茲に明かにせざるものは之を他の機會に譲づり、以て後日其責任を明かにすることを附記す。

### 英國産業革命史一斑の説明

高 木 壽 一

英國産業革命史に關する近年の著作中最も傑れたるものとして、Knowles, The Industrial and Commercial Revolutions in Great Britain during the Nineteenth Century (1921) を擧ぐべきが如し。ノールス教授は一七八九年フランス大革命より一九一四年歐洲大戰の勃發までを以て第十九世紀をなすものと見做し、此時代を以て、自由平等博愛のフランス革命の思想と英國の機械生産の技術との所産となす。茲に右の書第二篇(p. 17-109)に述ぶる所のノールス教授の説明に據りて英國産業革命史中、殊に英國に最も早く機械生産の發生したる事情、工場工業制度が英國工業生産の主要形態となるに到るまでの経過の概要を述べんとするものなり。

#### 二

歐洲列強諸國の産業化は第十九世紀の諸特徴の一をなすものにして、大英國の勢力の殊に重きをなすは實に此方面に存す。英國の諸々の發明は農業國を變じて工業國たらしめ、進んで全世界を一の密接なる經濟的關係の裡に齎らすに與つて力あり。而して第十九世紀の工業上商業上の革命は俱